

## 28E-pm04

処方箋データベースは生活習慣病患者への服薬指導の有力な支援ツールになる  
○富田 基郎<sup>1</sup>, 大林 秀樹<sup>2</sup>, 瀬川 正昭<sup>2</sup>, 藤原 真治<sup>3</sup>, 中野 泰子<sup>1</sup>, 西木 まゆみ<sup>4</sup>,  
田中正巳<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>昭和大薬, <sup>2</sup>こやだいら薬局, <sup>3</sup>木屋平診療所, <sup>4</sup>徳島文理大薬)

【目的】服薬指導の支援ツールとして「お薬手帳」が活躍しているが、生活習慣病では長期にわたり毎回の処方内容が似ており服薬指導はルーチン化しがちである。特に患者の長期スパンでの病歴経過を俯瞰しにくくなる欠点がある。処方箋をデータベース (DB) 化し、患者薬歴をグラフ化して特徴を「見える化」すれば病態の変化・進行度を深く理解でき、また同一疾患の患者群の中での患者の特徴も分かり、新しい視点からの服薬指導が可能になると考えられる。【方法】木屋平は徳島県の山麓地にある人口約 750 人、高齢化率 56% の過疎集落である。唯一の医療施設の木屋平診療所に隣接して 2010 年 4 月に NPO 法人こやだいら薬局が開局した。研究では薬局が受領した開局からの 4 年 3 ヶ月間の全処方箋 19550 枚を DB 化した。本 DB は患者情報を連結匿名化したので、各患者の処方箋を簡単に抽出して解析できる。解析にはエクセルと独自のマクロプログラムを用いた。【結果】全住民の 88% の 658 人の処方箋を受け取った。処方箋当りの平均薬剤数は、2010 年 5.03、2011 年 5.30、2012 年 5.69、2013 年 5.83、2014 年 5.86 と年々増加している。患者平均年齢も 72.4、72.5、72.8、73.3、74.6 歳と増加している。また 2013 年まで定期的に受診していた高齢患者の 24 人が 2014 年は 1 回も受診しておらず、自立生活ができなくなった高齢者が木屋平から転出していると推定される。患者ごとの処方箋数では 182 枚が最多であった。患者ごとに横軸を時間として縦軸を薬剤ごとに点表記して見てわかるグラフ化を試みている。【考察】DB を利用した服薬指導が具体的にどの程度有効であるかを今後検討していきたい。臨床検査値をグラフに挿入できれば、さらに有力な支援ツールになると期待される。